

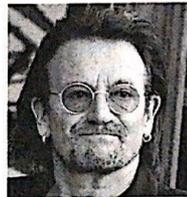
U2 再エネでライブ

世界的な人気ロックバンドのU2が、今月開いた13年ぶりの来日コンサートで、楽器の演奏に再生可能エネルギーから得た電力を使った。地球温暖化対策の重要性を訴えるのが狙い。英国の人気バンドも環境への配慮を理由に世界ツアーの中止を発表するなど、影響力のあるミュージシャンによる温暖化防止の取り組みが広まっている。

【和田憲二】

U2は、今月4、5日、台北の燃料電池車(FCV)の2日間、さいたまスーパーアリーナ(さいたま市)でコンサートを開催。ギターやアンプなど楽器の演奏に使う電力を、3

楽器電力 燃料電池車から



U2のボノさん
＝ロイター共同

電力を供給した。FCVで使用した水素は、福島長野両県の水力、太陽光発電で得た電力で水を分解して生成。100%再生エネ由来の電力による楽器の演奏となった。会場の照明などは通常の電力を使った。



「ルール形成戦略研究所」(東京)とコンサルティング大手「EYジャパン」

U2のコンサートに電力を供給したトヨタ自動車の燃料電池車(FCV)。一番奥は日本の著名ギタリスト、SUGIZO氏の所有車「ルール形成戦略研究所提供」

(同)の提案にU2が応じ、実現した。同研究所の客員研究員を務める日本の著名ギタリスト、SUGIZO氏も自身が所有するFCV1台と外部給電器を提供した。

英BBCによると、英国の人気バンドで11月に最新アルバムを発売したコールドプレイは、通常は数カ月かけて行う世界ツアーを中止。移動の航空機や公演で出る二酸化炭素(CO2)を減らすのが目的といい、日本でも「大変すばらしい。世界を動かすアーティストの力は大きい」(小泉進次郎環境相)と評価する声が上がっている。